



言葉と元気になる活字のビタミン

ORANGE 新聞

FROM 小山薫堂 (責任監修) 率いるオレンジ・アンド・パートナーズのゆかいな社員たち

第19号 2010.9.18

3つめの東京を歩こう

オレンジ社は東京の神谷町にあります。だから社員全員は自宅と神谷町を往復しています。「第2のふるさと」という言い方がありますが、われわれにとって第2の東京は、今は神谷町になると思います。では「第3の東京」は？ きっと思い思いの場所、人、味わいなんか浮かび上がってくるはず。そこでちょっと目線を変えた東京歩きをテーマに、第3の東京ツリーを作ってみようと考えました。

秋の夜、向島へ誘われ

僕は葛飾区亀有に生まれました。両親の出身は足立区千住。

▶月夜にお供えものの四子。うっとり眺めてしまった。



親族がいるのは千住、浅草、高砂などほぼ東に集中。子ども時代、親と週末にお出かけといえは上野、秋葉原、銀座。高校時代に通ったのは両国でした。

反面、当時は渋谷や表参道に出かけるほうに魅力を感じていました。でも最近、昔なじみのエリアがなぜか気になっているのです。

5、6年前、ある番組の仕事で作家の山下柚実さんに取材を依頼しました。「土曜の夕方に東向島にいるからそこでやりましょう」と言われ、良くわからずに出かけました。

待ち合わせたのは、墨田区の東向島駅から歩いて7、8分の「向島百花園」。萩や梅、春や秋の七草など多くの花が植えられている庭園です。車の多い通りを渡ると鬱蒼とした緑があって、奥に小さな入り口がありました。入園料150円を払って入ると、暗くなり始めた園内に別世界が広がっていたのです。



◀庭園の一角が明るく、音色が月夜に響き渡っていた

どうしてこの地味そうな庭園にこんなに人が？と思ったのですが、この日は中秋の名月を楽しむ「月見の会」だったので。山下さんは五感生活を研究されている方で、まさに「五感で秋を感じる」催しでした。

五感で感じた、東京の粋

来場者が次々と写真を撮っている場所がありました。お団子や果物などのお供えものがあり、奥の正面にぽっかり浮かぶ月。単に美しいだけでなく、この名月を楽しむ日本人のしぐさがすてきだなと感じました。

その後、浴衣姿の山下さんとベンチでお話をしました。コオロギやスズムシなどが暗闇の中で美しい音色を奏で、びっくりするほどよく響きます。茶屋からは風流な琴の音色も流れてきます。

「ここは豊かな自然の趣があって、草むらから音が立体的に立ち上がってくるでしょ。一

方で時折、車の騒音も聞こえてきて、ここを取り巻く音が東京の情緒という感じですよ」

あっ、そうか！と気づかされました。僕はきれいな音色ばかりに耳を傾け、外の騒音には耳を閉じていた。だけど、そこが東京の面白いところかも。

たまたまお邪魔した向島でなんだか東京って面白い！と思いました。伝統と発展の両面を受け入れながら、楽しんでしまう術を持っている。まさに「粋」というスタイルが東京に根づいている、と思わされた秋の夜でした。

今年も向島百花園で「月見の会」が開催されます。21～23日の午後8時30分まで入園できます。東京スカイツリーを見物しながら足元に広がる墨田区にも目を向けると、すてきな出会いがたくさんあると思います。秋の夜長、東京を五感でお散歩しませんか。(シンヤ)



初めての名刺入れを買ったカバン屋さん。「10円かけてやる。がんばれ」と小さなサービスをしてもらったことがどれだけうれしかったことか。たった10円で人の心を動かせるものなんだなあと感動しました。「そう感じたら君も誰かにさうしてやらなくちゃダメだ」と言ったのは小山社長。あの静かな商店街を見ると、当時の自分がよみがえってきます。(ジュニア)

街というのは記憶にうつつすらと描かれた背景のようなもので、それは人生の一部と言えものだと思います。18歳で上京し初めて住んだのは職場も寮もあつた府中でした。就職し親元を離れた。就職し親元を離れた。すべてが初めての経験で不安定だった時期の記憶とリンクしている街。それだから、現在はそのからしかつながつてないと思うと、つらいながらも大切だと思える街です。(ナツ)

渋谷に住んでいたころ、毎日のように代々木公園に通ってました。早朝は散歩中のおじいさんやおばあさんが「おはよう」と声をかけてくれる。温かい気持ちになります。昼間は音楽を奏でる人、写真を撮る人などさまざまな人に出会え、週末はイベント屋台も楽しめます。桜が咲いたらお花見に、秋はイチヨウの落ち葉を見に、1年中穏やかな笑顔があふれています。(みかん)

不夜城、眠らない街と色々な呼び名がある街。喧嘩、雑多、狼狽。こんな言葉が似合う街。割と敬遠されがちだが私的には最もアジアなおいがる。人種、性別、いろいろな混ざりあう中、なぜかピースフルな人が多い。もめ事なんていつものこと。逆気にならないのも逆に超ピースフル。妙に「匂」を感じるリアルアジアな街が気に入ります。(つる)

編集後記 (シンヤ)

大きな名所が建つと行列ができ、視点が次々と変わっていく東京。でも、名所の横を歩くと生活感漂う路地がある、このコントラストこそ魅力。ぜひ皆さんも第3の東京を探してみてください。

最後にオレンジ代表、小山薫堂に問う第3の東京は？
「江古田。原点を取り戻せる場所だから」

(株) オレンジ・アンド・パートナーズ編集部 ● ご感想宛先: ex@orange-p.co.jp
● Webサイト: www.orange-p.co.jp

次回は10月16日(土)に掲載します

上野公園にある不忍池は以前、近所に下宿していたころ、暇があればぐるりと一周した思い出の場所です。荘厳なのは7月下旬。池一面に広がる蓮の花が満開を迎えるころです。これほど勢いよく咲く花を見たことがありません。東京のエネルギーが蓮の花となつて昇華されているかのようです。この花を見るだけで元気がみなぎる不思議な場所。明日もがんばろうと思える大切な場所です。(品)

アサクサ、トキヨ、ジャパン。言わずもがなのメジャースポット。粋を感じたい、と国内外から訪れる人々の期待を裏切りませぬ。おすすめは「天健」さん。ビッグマックほどもある大きなき揚げが自慢です。ぶすーっとした顔で(完全に頑固親父!)天ぶらを揚げる大将を横目に手酌で食す。無駄話はなし。落語の前にちよつと一杯。一度お試しを。(ライス)

地方出身の僕にとって、品川という響きは特別です。多分ドラマで登場する車のナンバーがそれだから。でも古き良き商店街もたくさん残っています。例えば北品川商店街。路地の裏の銭湯に入ったら体に湯気を残したまま歩き、割烹料理店「牧野」で生ビールとイカ肝のホイール焼きを楽しむ。いつか見た都会の真ん中で地に足の着いた幸せを感じることもできます。(トモ)

永代橋は昼と夜で表情が変わるのが有名ですが、僕にとってはキモチを切り替えるとおきの場所。気分転換に銀座まで帰る際にこの橋をゆっくり時間をかけて渡ります。夜風を感じ隅田川に映るブルーの陰影を眺めていると、ちょっぴり気分がスッキリしている自分が見えます。心を和ませてくれるすてきな場所です。(きむG)

大学時代の大半をバイト仲間と過ごした、仏語で「裏道」という名のカフェ。通りの皆が顔見知りといった下町気分がうれしくて、学校から家に帰るよりこの路地に戻り、定食屋でまかないを食べたり支那そばをすすり方がホッとしたものです。当時のお店はほとんどないけれど、青春の思い出はあの路地。通る度に「皆元気かな」と思いを寄せます。(まい)

トキヨ

浅草

品川

品川

浅草